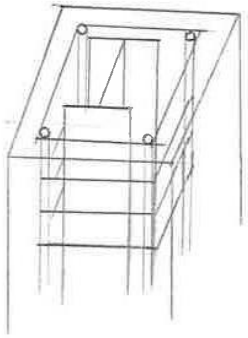
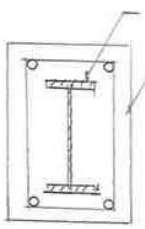
平成26年 No.19 鉄骨鉄筋コンクリート構造

1. 柱の軸力の分担 → 曲げモーメントMと軸方向力Nの負担割合は任意であり，Nを全てRCに負担させることも可能
2. 鉄骨ウェブ形式と耐震性能 → 充腹形鉄骨を用いた場合，非充腹形鉄骨に比べて耐震性能は向上する
3. 曲げ降伏が発生する非埋込柱脚部 → 鉄筋コンクリート構造とみなして耐震計算を行う
4. 方向別ルートの適用 → ひとつの建物において方向別に異なる耐震計算ルートを採用してもよい

1. 柱の軸力の分担

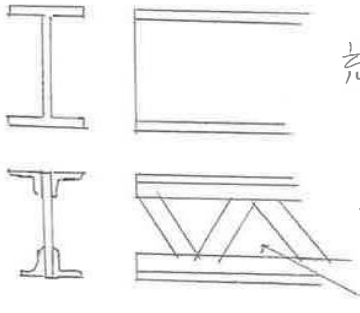




- 軸方向力と曲げモーメントに対する設計
  Sの耐力 ＋ RCの耐力

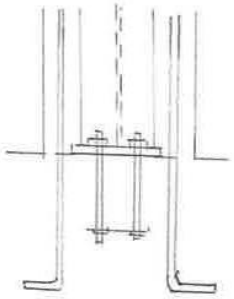
(例)　曲げモーメント → Sが負担　　軸方向力 → RCが負担

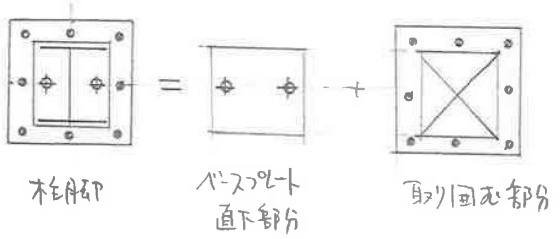
2. 鉄骨ウェブ形式と耐震性能

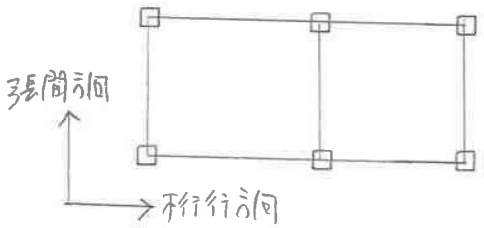


非充腹形より
せん断耐力が大きい
↓
靭性が高い
↓
耐震性能が大きい

3. 曲げ降伏が発生する非埋込柱脚部





4. 方向別ルートの適用

ひとつの建物において張間方向，桁行方向の方向別に異なる耐震計算ルートを採用してもよい